

ろうきん森の学校20周年記念シンポジウム

里山コモンズ自然学校としての『ろうきん森の学校』の意義

～企業とNPOの協働による「森・人・地域」を育てる20年間の活動の軌跡と未来～

2025年3月14日 13:30～16:30
 主催：NPO法人ホールアース自然学校
 共催：労働金庫連合会
 協力：NPO法人いわきの森に親しむ会
 NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部
 NPO法人グリーンウッドワーク協会
 NPO法人ひろしま自然学校

1

1

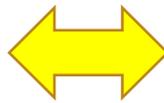
1. 開校の経緯

ろうきん森の学校＝労働金庫連合会50周年記念社会貢献活動

1) ろうきんと自然学校の特徴 ～目指す社会は同じ～



- 非営利の金融機関
- 勤労者のみならず、市民団体などのネットワークによって成立
- 経済のみならず、福祉・環境・文化に関わる活動を促進
- 人々が喜びと持って共生できる社会の実現に寄与する



共通・共感

自然学校

- 非営利の民間団体
- 子どもから大人まで幅広い層を対象
- 専門性を持った指導者、フィールド、実施できるプログラムを持つ
- 持続可能な社会の実現を目指す

2

2

1. 開校の経緯 Asom
森の学校

2) なぜ「ろうきん」が森の学校に取り組むのか？

CSR
(企業の社会的責任)

1. コンプライアンス(法令を順守する)
2. 自社事業を通じた社会的課題の解決
3. 社会共存していくため、一歩踏み出した活動

→

→

→

ろうきんのCSRとは

- ・既存のNPOの活動を支援しながら、そのフィールドを借りて、職員や顧客である労働組合の方と一緒に環境活動に取り組もう！
- ・10年間にわたって支援しよう！

3

3

1. 開校の経緯 Asom
森の学校

2) なぜ「ろうきん」が森の学校に取り組むのか？

ろうきん＝
非営利の金融機関

1. 会員は労働組合等、一般の勤労者
2. 幅広い業種・分野に会員を持つ
3. 社会的認知が高い

→

↓

森の学校＝労金連のCSR活動

勤労者に対して、楽しみながら参加できる環境貢献活動を提案

「ろうきんの理念」に共感する
森・人・地域を育てる活動

4

4

1. 開校の経緯



3) 全国から5地区を選定(第Ⅰ期は3地区、第Ⅱ期で2地区追加)

全国のモデルとなるべく、自然体験活動の活動実績があるNPO法人と対象地区を選定



5

5

2. 活動の概要



～3つの柱～

- ① 森を育む～里山の再生～
- ② 人を育む～次代を担う人づくり～
- ③ 森で遊ぶ～楽しみながら取り組むモデルの発信～

地域と共に行う～様々な関係者との協働～

地域住民、地区ろうきん等、関係者の理解と支援を得ながら活動展開

6

6

2. 活動の概要

① 森を育む～里山の再生～

荒廃した人工林、二次林を除間伐し、美しい森を再生



人工林の間伐(富士山地区)



環境省 自然共生サイトへ登録(広島地区)

7

7

2. 活動の概要

② 人を育む～次代を担う人づくり～

森林を活用した自然体験活動指導者の育成の他、活動を通じて関係者の環境意識醸成にも取り組む



ローカルSDGs人材育成講座(富士山地区)



地元ろうきん職員研修でも活用(広島地区)

8

8

2. 活動の概要

③ 森で遊ぶ～楽しみながら取り組むモデルの発信～ 楽しみながら里山の自然・地域の知恵を学べるプログラムを実施中



休耕田に小麦を播き、小麦を収穫してパンを焼く「小麦プロジェクト」(広島地区)

9

9

2. 活動の概要

地域と共に行う～様々な関係者との協働～

地域住民、地区ろうきんなど関係者の理解と支援、協働により活動を展開



広島地区では毎年秋に「森の学校フェスティバル」を地元中国ろうきん等と協働で開催。写真は中国ろうきん発行の「R・ism(リズム)」でのフェスティバル紹介ページ。



新潟地区で恒例となっている棚田保全活動での田植え体験。地元新潟ろうきんの協力を得て開催。

10

10

4. 森の学校の特徴



- ① 「森づくり」から、「人づくり・地域づくり」につなげる自然学校活動
 体験的な手法、森の魅力を実感できるプログラムがメイン。
 活動を通じて、都市部からの交流人口を増やし地域活性化に寄与。
- ② 現地NPOが主導する「地域主体型」活動の定着
 基本方針は全国共通。活動は地域の実情に合わせた柔軟な展開。短期間に成果を焦らず、20年間という長期に亘った活動の定着を重視。
- ③ 支援団体関係者への体験プログラムを通じた「環境マインドの醸成」
 支援団体関係者(ろうきん関係者)への研修プログラムを積極的に実施。
 自然体験でリフレッシュ、身近な環境問題の実感、チームワークの醸成など、参加者が様々な「森の学校」効果を実感。

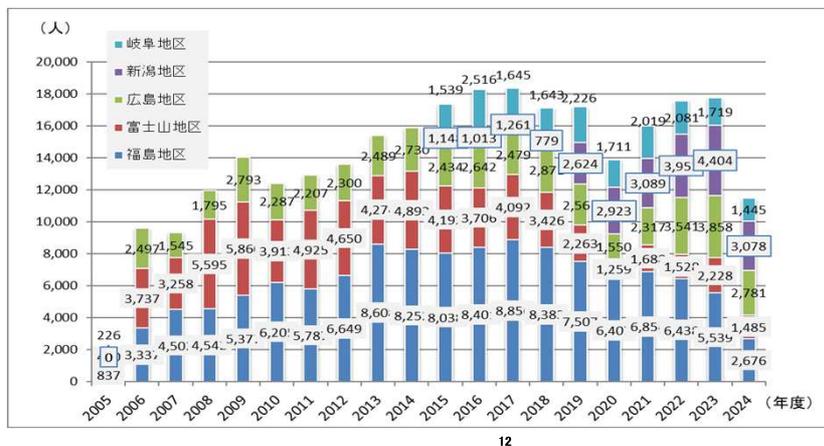
11

11

5. これまで20年間の実績



2006年度より活動が本格化し、のべ1万人以上が毎年プログラムに参加
 コロナ禍でも活動を止めずにできることを着実に継続



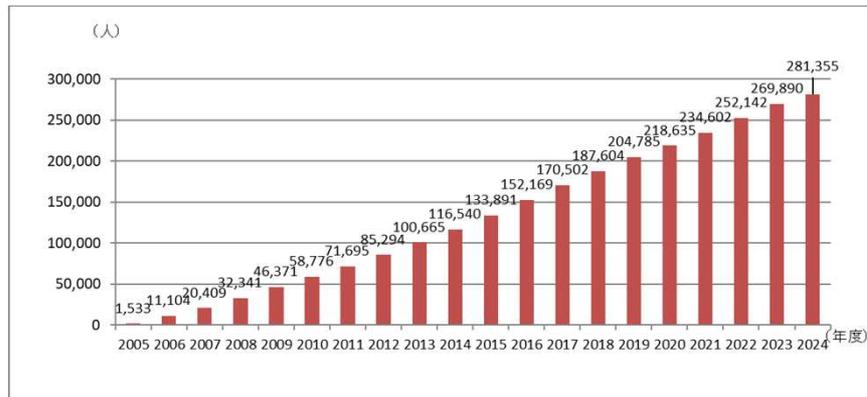
12

12

5. これまで20年間の実績



2024年度までに5地区を合わせて、のべ28万人を超える方が
森の学校に参加 ※2024年度は10月末時点



13

13

6. 今後の予定



2025年度より
ろうきん森の学校は新たなステージへ

- 団体支援から活動支援へ
- より幅広い参加を促進
- 里山を舞台に、SDGs達成に向けた活動を継続
- 生物多様性保全や地域課題解決に取り組む、新しいコモンズ(共有財産)の創出に取り組む

14

14

ろうきん森の学校

20年のあゆみ(福島地区)



NPO法人いわきの森に親しむ会

1

- 設立: 2001年10月3日
- NPO法人認証: 2004年6月
- 設立経緯
2001年7月から9月の間、森との共生をテーマに「うつくしま未来博」が開催され、その理念に共感した有志が集まり、里山を市民の手で再生することを目的に設立した。
- 役員 理事長、副理事長、理事6名、監事2名(全て非常勤)
- 会員 正会員: 81名 家族会員6名 団体会員5名
- 特徴
会員のほとんどが、定年退職後に会員となる健康意識が高く、ボランティア精神に富む

2

森を育む①

1. 栗園跡地再生整備(2.5ha)

成果: 薪炭林の森林をつくるため整備してきたが、その森林は、今後植林の必要のない再生産可能な森林になった。



毎年、植樹した木が育ち、シイタケのホダ木として利用できるようになった。

3

森を育む②

2. 岩出の郷里山保全活動(12ha)

成果: 2006年に里山保全活動を始めた「岩出の郷」は、地域や親子が年間を通して参加する、地域密着の活動の場所になった。



4

森を育む③

3. 海岸林再生作業

成果：2012年から2022年まで、津波被害のあった場所にマツの苗木を植樹し、延9,409名がボランティア参加し、当会がかかわって完了できた。



地元企業が2016年に植樹した木は、高さ5～6mに成長した。

5

人を育む①

1. 作業機械取り扱い研修支援

成果：湯の岳山荘は、林業研修センターとして建てられたもので、会の発足以来支援してきた。



刈払機とチェーンソー取扱い研修会をそれぞれ年に4回実施し、参加者約300名にスタッフ40名が支援した。

6

人を育む②

2. 小学校の環境教育支援

成果：会の発足時から小学校とその周辺の里山をフィールドに、教師が行う自然体験活動を中心とした環境教育支援を行ってきたが、環境に関心を持つ子ども達が増えてきた。



コロナ前は小学校12校を支援していたが、コロナ中は7校に減少した。現在は徐々に増えてきた。

7

森で遊ぶ①

1. ろうきん森の学校自然体験活動

成果：会の発足時より実施しており、活動のメインとなっている。内容も年々充実し参加者も喜んでいる。



・毎月第3日曜日に実施(2月までに343名)

8

森で遊ぶ②

2.湯の岳自然学校inいわき

成果：2022年度からこの事業を始めたが、好評なため継続する。



農業体験(ジャガイモ収穫)

・2月まで74名参加



木工工作(椅子)

9

自然エネルギー施設の整備

成果：自然エネルギー(太陽光、風力、水力、熱)の4つの施設を1か所に集めたところは市内どこにもなく、小学生の環境学習の場として今後ますます有効になる。



10

自然エネルギー施設



水車



風力発電



太陽光発電



石臼



足湯



足湯の屋根にペットボトル

11

課題と25年以降の目標

■課題

現在の施設は、2024年3月末で廃止となったが、森の工房を拠点にこれまでどおり活動を行います。水道水とトイレがなく、隣接する丸山公園の施設を使用するようになり、多少不便になります。

会員の高齢化問題はどこも同じですが、当会は健康な高齢者が多いため、その健康年齢を伸ばすよう会員同士のコミュニケーションを図ってまいります。

■目標

湯の岳山荘での活動継続と、当会の特色である小学校の環境教育支援の拡充、地域参加の岩出の郷里山保全活動の充実と、他地区に自然体験活動の場を働きかける。

1. ろうきん森の学校(月1回)
2. 湯の岳自然学校inいわき(年8回)
3. 環境教育支援の拡大
4. 森林整備班、木工班、プログラム班、観察班の定例活動

12

福島地区活動報告



ご清聴ありがとうございました!



1

特定非営利活動法人
かみえちご山里ファン倶楽部

団体概要

- 2002年 NPO法人格取得
- 会員:約280名
うち地域内3割・市内3割・大都市圏3割
- 理事12名、常勤スタッフ5名
- 年間予算:約5,000万円
- 活動地域集落数 25集落

基本理念
山里の自然、景観、文化、
地域の農林水産業を
「守る、深める、創造する」

新潟県
上越市

●新潟県上越市西部中山間地域●

日本海

国道9号線

谷浜地区
桑取地区
中ノ俣地区
正善寺地区
金谷地区

約15km

くわどり市民の森
地球環境学校 角間の棚田

2

■新潟地区の基本方針

自然と暮らしとのつながりを体感できる
体験活動を継続し、人が集う場づくりを行う

■2019年度 活動の方針

資源の現状把握とハード・ソフト・人材・つながり等のすべての
基盤づくり・基礎固めを行う



ハード整備を活かしたソフト事業
と場作り・仕組み作りを推進

■2024年度 活動の方針

「部会」「クラブ」を中心とした活動の「場」作りを進め、
部会等の目標・目的を共有した仲間作りと活動を推進する

3

3

①森を育む（森林整備、調査活動）

- ・市民の森の散策道整備、草刈り、雑木林の下草刈りや支障木整理を実施。
- ・きのか畑やネマガリタケ林の整備、ホダ木の追加を実施
- ・専門家による大型動物を中心とした動物調査を実施（定点カメラ設置）



●散策道整備



●分区林内の森林整備



●動物調査



●ネマガリタケ林整備



●きのか畑の整備



●きのかコマうち 4

4

①森を育む（森林整備、調査活動）

- ・散策道や遊び場が整備され、安全に楽しめる空間が増えた。
- ・きのこ畑やネマガリタケ林の整備が進み、収穫物として成果が見えた
- ・動植物調査にて、ササユリの増加やヤマネの生息域などが確認された



●ササユリの丘の遊び場



●増えつつあるササユリ



●2023年8月に撮影されたヤマネ



●きのこ畑のナメコ



●原木シイタケ

5

5

②人を育む

- ・スタッフ研修（外部講師又はスタッフ間共有）、安全講習、指導者講習等を実施
- ・インターン生や高校実習の受け入れを行い、就業の場としてのPRを実施
- ・参加者からボランティア・協力者の育成へとつながる場作りを推進



●スタッフ間技術共有



●安全講習（機器整備等）



●ものづくり勉強会
（指導者講習）



●インターン生受け入れ



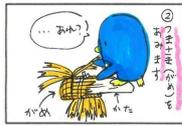
●森の仕事体験in上越（高校生実習）

6

6

②人を育む

- ・インターン生からスタッフへの採用→日々・スキルアップ！
- ・参加者から協力者・指導者へ（ものづくり勉強会、棚田サポーター等）
- ・立場に応じたいろいろな関わり方を提案できた（棚田サポーター、ことごと等）



●インターンからスタッフへ



●両者とも指導者レベル



●古民家改修に女性も参加



●地域の人材発掘・活用

7

※ 施設・フィールドの整備

- ・プログラムや活動において、快適性が格段に向上した
- ・雨天時にも活動できる内容が増え、プログラムの幅が広がった
- ・「フィールド整備」そのものがプログラム化（もりっちクラブなど）



●ウッドデッキ整備



●ウッドデッキ新設



●下屋の増設（組み立て式）



●レンガかまど新調



●中ノ俣角間の新展望台

8

③森で遊ぶ（各種体験プログラムの実施：通年）

・年間実施の「棚田学校」、「もりっちクラブ」、「子ども山里学校」、「ものづくり体験会」などで、リピーターおよび通年参加者が増加し、「自分たちで自分たちの活動を作り上げる」という意識が高まっている



●かかし作り（棚田学校）



●鎌とぎ（棚田学校）



●ものづくり体験会



●堆肥作り（もりっち）



●栈橋塗装（もりっち）



●子ども山里学校

9

③森で遊ぶ（各種体験プログラムの実施：季節プログラム）

・季節プログラムでは、初めての人でも気軽に楽しく森に親しんでもらえるように内容を精査する一方、安全に考慮しながらも、クモ観察会やライトトラップなど新たな試みにもチャレンジできた。



●クモ観察会



●ライトトラップ



●川遊びプログラム



●夏のふるさと探検



●森林整備と秘密基地作り



●親子びちキャンプin桑取谷

10

④森とつながる・人とつながる →新たな気づき！

- ・岐阜地区との技術交流では、自らのフィールドの資源や新たな視点に気づかされ、またプログラムへの実践的な応用もでき、とても有意義であった
- ・子どものたまり場事業は、学校や地域との連携および保護者や地域の協力者により幅広い活動となった



●キハダを使ったものづくり・わら細工（岐阜地区との技術交流会）



●子どものたまり場事業（川遊び、森遊び、チェコとのオンライン交流等）¹

11

⑤地域との連携

- ・地域との共同作業を通じ、地域資源の把握および課題等の聞き取りができた
- ・地元小中学校との連携により地域課題の把握ができた



●用水清掃（中ノ俣）



●水道補修（横畑集落）



●増沢住民との共同作業



●山菜祭り等での出店



●地元小学校クラブ活動の指導



12

12

⑥ろうきん関係者との連携

- ・新潟ろうきんの皆さんによる月1回程度の定例活動により定期的な整備が進んだ
- ・新潟ろうきんの新人研修の場として、またシニア倶楽部や散策会等の場として利用いただき、連携実績を作ることができた



●くわどり市民の森整備活動（きのこ畑、ネマガリタケ林の整備と収穫）



●新潟ろうきん新人研修

●中ノ俣棚田での田植え・稲刈り

13

13

■2024年度までの成果と課題

- ・継続は力なり！事業や活動を「自分事」として捉えて、発展しながら継続したい
- ・「きっかけ作り（つながり作り）」で終わらず、活動への参加や協力、継続に結びつけたい



■2025年度 活動の方針

いろいろな人が・いろいろな立場で・いろいろなペースで
目標を見据えた達成感のある活動に参加できる場を作り、
継続する

- 地域で子どもを育てるUターン教育 <子どものたまり場事業>
- 親子で取り組む自然体験活動 <もりっちクラブ>
- 伝統技術・生活技術の継承とものづくり <ちょいワラ体験会>
- 棚田の保全と継続の仕組み作り <棚田サポーター>
→連合会・新潟ろうきんによる田植え・稲刈りサポーター

14

14

ろうきん森の学校20年のあゆみ

富士山地区の成果とこれから



NPO法人ホールアース自然学校

1

● この時間でお伝えすること



1. ホールアース自然学校の概要
2. 富士山地区としての20年の成果
3. 課題と2025年以降の目標

2

活動のスローガン「自然語で話そう！」

「自然語」を身につけるために…

- 自然**体験**を通じて感性を研ぎ澄ます。
- 仲間や社会や自分との**対話**を重ねる。
- その過程で、自身の「**自然観**」を
獲得し、暮らしに反映させる。

●主な活動：

- 1) **自然体験／環境学習プログラム**
※キャンプ・エコツアー・修学旅行受入・食育PG等
- 2) **企業の環境活動／社員研修支援**
- 3) **行政事業の受託** ※環境・農林・教育・観光分野
- 4) **施設運営** ※自然ふれあい施設、少年自然の家、公園等
- 5) **農業（無農薬栽培）／野生鳥獣対策（狩猟・ジビエ）**
- 6) **生物多様性保全**

- 創 立：1982年
- 常勤職員数：35名
- 年間売上：約3億5,000万円
- 拠 点：静岡、沖縄、福島、新潟、岐阜
- 受 賞：エコツーリズム大賞（2007年）
日韓国際環境賞（2018年）等



◆ 森を育む

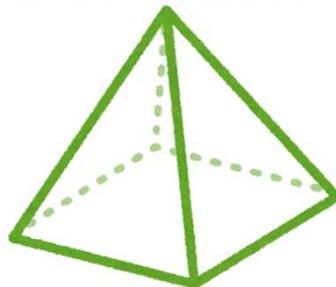
- ★小さく、順応的に、状況に合わせたフィールド管理。
 - 対象地の自然特性・地域特性に合わせた管理を実施。
 - 管理方針のベースとなる情報（生き物、林業、水脈、教育など）収集は、専門家によるレクチャーからも。
 - 関わる地域の人々やスタッフやボランティアの意向も汲みながら作業を実施。
 - 蓄積されたノウハウは「森の学校」以外のPJにも。



5

◆ 人を育む

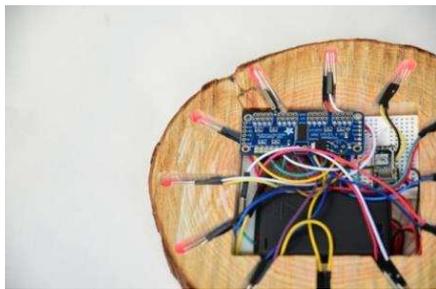
- ★関わった歴代スタッフは、“大きな底面”を獲得。
 - 森・人・地域と「事を成す」際の多様な知識・技術、自身のあり方を獲得。それらを“大きな底面”として、新たな「事」を築き上げている。
- ★生活者一人ひとりを、子どもや学生を、時に指導者を。
 - 「森の学校」は、常に人々の学び舎であり続けた。スタッフと共にたくさんの学び・気づきを創発した。



6

◆ 森で遊ぶ

- ★森の学校で起こした“小さな洞”を、団体の収益事業へ。
 - 新たなチャレンジを支えてもらった。時代の「半歩先」を意識した企画を展開し、素早く改善を重ねた。
 - dPDCA：小文字の“do”から始まるサイクルに、臆することなく立ち向かうことを可能にしてもらった。
 - ここから幾つもの収益事業が生まれ、そのノウハウは全国各地の環境教育団体にも参考にされている。



7

◆ 地域との連携①

- ★フィールドがある柚野地区/猪之頭区との連携が進展。
 - 間伐材の地域内循環の仕組み、地域住民による講師、小学校の屋外授業、年1回の地元意見交換会など。
- ★「森の学校」での連携を核とした、新たな動きの発生。
 - 県内大手ホームセンターが隣接地で活動開始、猪之頭区の森や水をテーマにした体験ツアー開発、猪之頭振興協議会の設立、特産物の開発・販売など。



8

◆ 地域との連携②

- ★地域の労福協や労働組合、各支店との連携企画が好評。
 - コロナ禍から連携が急加速。様々な活動が森の学校のフィールドなどで実施されている。
 - キーワードは交流・地域貢献・家族参加・研修・周年イベントなど。
 - 年間で、労福協2団体・労組10団体くらいを対応。
 - 各団体とも、年間予算に活動費を計上してくれている。



9

◆ 課題と2025年以降の活動

- (A) 市民活動としての森林環境再生活動
 - 受益者負担が困難な、地道な森林環境再生活動は常に存在する。こうした活動は「森の学校」の支援により継続していきたい。
- (B) 若い世代に向けた人材育成プログラムの継続
 - 持続可能な社会を構築していくための考え方や技術の「習得の仕方」を学ぶ研修。ここ1~2年のトライアルで掴めた感覚を大切に継続していきたい。
- (C) ろうきん関係者のプログラム実施
 - 主に連合会の皆様向けプログラムを継続したい。「研修」という切り口を提案していきたい。

10

ろうきん森の学校 岐阜地区 since2015

岐阜地区10年のあゆみとこれから

2025年3月14日

NPO法人
緑 グリーンウッドワーク協会
<https://www.greenwoodwork.jp>

0



NPO法人グリーンウッドワーク協会について

- ・2008年発足（今年で17年目）
- ・生木を使った人力の木工を広める活動を展開



1

 成果 拠点整備

ワークショップによる自力建設



2

 成果 森を育む

実のなる森づくり・獣害対策、原木マイタケの栽培



3

米 成果 森を育む

ものづくりのための自然素材の調達（木材・草木染）



4

4

米 成果 森を育む

ものづくりのための自然素材の調達（草や樹皮で椅子の座編み）



5

米 人を育む

子どものナイフワーク指導者講習・スタッフの育成(草木染講座)



6

米 森で遊ぶ

森の工房やキッチン、カフェからはじまる森の時間の充実を図る



7

米 森で遊ぶ

森工塾（もっこうじゅく）季節の講座・暮らしのものづくり



8

米 地域との連携



地域の団体・教育施設との連携

- ・地域の里山団体との共同イベント
- ・保育園・森のようちえんへの支援
- ・専門学校（森林文化アカデミーとの連携）
- ・武義高校課題研究（森のお困りごと解決）

9

9

これからの課題と目標



通いたくなる森づくり

- ・実のなる森づくりの展開
- ・森での癒し、ものづくりの癒し

地域との連携強化

- ・武義高校との連携を継続
- ・新たな風を取り込む

収益基盤の強化

- ・魅力あるコンテンツの発信
- ・企業研修の実施など

10

10

NPO法人
 グリーンウッドワーク協会

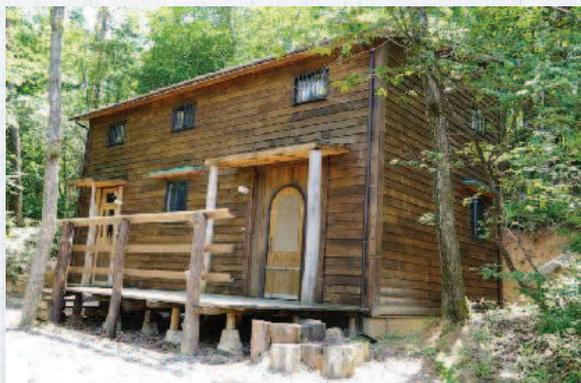
<https://www.greenwoodwork.jp>

11

広島地区

特定非営利活動法人
ひろしま自然学校

フィールド紹介



木の学校 おさんぽ MAP 夏



ひろしま自然学校について

〈設立〉

2005年8月

20年で **5万人**

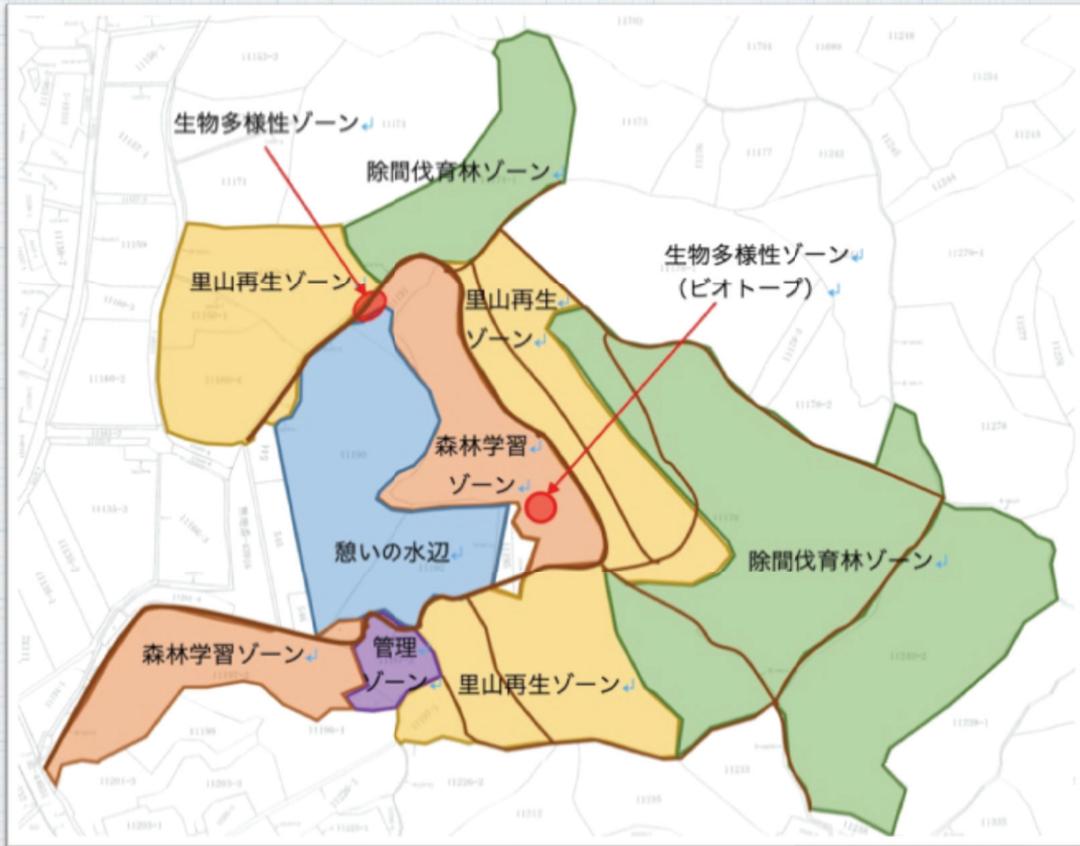
〈フィールド〉

広島県山県郡北広島町にある11haの里山

〈目的〉

子どもから大人までのすべての人に対して、環境教育、自然体験活動などの普及・啓発、調査研究、人材育成に関する事業を行うことで、地域文化や自然環境を保全しもって持続可能な社会の実現に寄与すること。

森を育む 里山整備



森を育む 里山整備

約 9,000人



森を育む 生き物調査



人を育む ユースリーダー



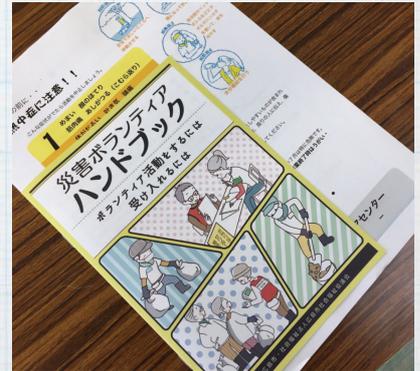
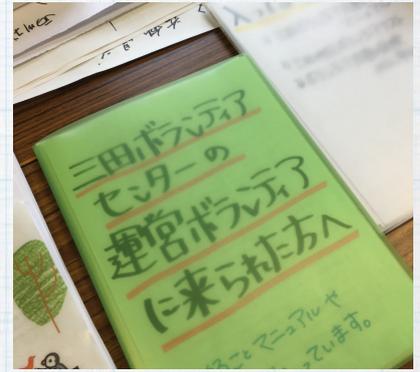
地域連携 森の学校フェスティバル



地域連携 企業・団体



地域連携 災害支援



20周年 現在の課題と展望

【森を育む】

- *自然共生サイト認定に伴う生物調査の継続実施
- *森の整備と生物調査人材の高齢化
→新しい担い手の育成

【人を育む】

- *地域課題解決の人材養成（CWTは主に現役世代対象）
→ユース世代の育成（ローカルSDGs人材育成）
- *周辺地域の環境教育の質の低下
→質の高い環境教育指導者の育成

【森で遊ぶ】

- *里山と市街地の隔たり深刻化（野生動物リスクへの過剰反応）
→新たな里山活用ライフスタイルの提案

ひろしま自然学校 NEXT10

「さとやまコモンズ自然学校」として

【まなぶ】 自然体験から学び 里山の価値に気づく

*オルタナティブな学び *ワークショップで創り出す

【まもる】 里山の生態系を見守りながら手入れする

*ボランティアによる定例活動 *企業・地域との協働

【つかう】 里山の恵みを活用する ライフスタイルへ

*ものづくり *自然調和型拠点づくり *レジャー *食